

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第33報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査(平成6年度)

千羽 晋示*・安部 直哉**

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 33,
The Inquiry about the Distribution of Cranes
in western and central Japan

Shinji Chiba* and Naoya Abe**

序

本報告は、第2次・鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査の第5年目つまり最終年度(平成6年度)に行ったツル類の記録に関するアンケート調査の結果をまとめたものである。今回のアンケート調査の内容は前年度と同じである。

回答者の方々、出水地方におけるツル類の渡来、渡去状況の情報をいただいた又野末春氏にお礼申し上げる。

調査方法

調査対象期間 1994年秋期のツルの渡来期から翌1995年春期の渡去期まで(1994～1995年期)。

調査対象地域 九州、四国、中国、近畿の各地方と東北地方の一部を調査域とした。ただし、ナベヅル、マナヅルの定期的な渡来、越冬地である鹿児島県出水地方と山口県熊毛町八代地方は除いた。

アンケート調査の内容 調査用紙の様式と内容は、千羽・安部(1989)に示したものとほぼ同じである。

アンケート調査用紙の発送先 表1に示した各県に在住の日本鳥類保護連盟会員、長崎県生物学会々員、そのほか鳥類研究者、観察者に返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付した。ただし、前回と同様に、調査依頼者は前2年度の回答者とした。さらに、一部の方々には再度の問合せを行い、また調査用紙を送付していない数名の方にも問合せ、情報を集めた。

調査結果

調査用紙の回収 387名の方に調査用紙を発送し、回答者数は343名、回収率は89%であった。各県別の回答者数を表1に示した。

*国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum.

**奈良県天理市前栽町223. Senzai-cho 223, Tenri-shi, Nara-ken.

表 1. 県別回答者数

秋 田	5	三 重	11	徳 島	6
山 形	1	滋 賀	5	香 川	6
福 島	3	京 都	10	愛 媛	3
新 潟	19	大 阪	22	高 知	4
富 山	6	兵 庫	22	福 岡	19
石 川	6	奈 良	9	佐 賀	4
福 井	2	和 歌 山	4	長 崎	29
山 梨	5	鳥 取	4	熊 本	6
長 野	20	島 根	3	大 分	5
岐 阜	19	岡 山	2	宮 崎	4
静 岡	18	広 島	12	鹿 児 島	4
愛 知	41	山 口	2	沖 縄	1

表 1 に示した県のほか、栃木県、千葉県に転居された各 1 名の方からも同県の記録の回答があったが、これらの県にはツル類の記録がなかったので、表 1 には含めなかった。

調査記録のまとめ方 記録のまとめ方と記述方法は、これまでのアンケート調査に関する報文と同じにした。本報でも、編著者の知見を基に適宜に「注」を記した。また、主として又野末春氏からいただいたツル類の月日別の渡来、渡去記録を参考にして、種不明と回答されている記録の一部は、編著者の判断でナベヅルかマナヅルに判定して、そのぞれの種別の項にまとめた。

1994年秋期から1995年春期までの記録

新潟県

クロヅル

- (1)1994年11月から1995年 5 月。幼鳥 1 羽。

両津市、加茂湖の周辺の湿地、農地で越冬（上田秀雄氏から安部宛私信）。

石川県

ナベヅル

- (1)1994年12月 6 日。成鳥 2 羽と幼鳥 1 羽の家族。鹿島郡鹿島町久江の水田跡に初めて観察される。

1995年 1 月 4 日まで、同郡久江町、高畠町、鹿西町などに生息し、羽咋市の邑知潟の上流約 4 km の水田跡をめぐらにしていたという。また、一時は、福井県の九頭竜川河口域にも移動したらしいともいわれている。

- (2)1995年 2 月26日から同年 3 月 4 日。成鳥 1 羽。河北郡津幡町舟橋、能瀬の水田跡。

- (3)1995年 4 月 2 日。(2)と同じと思われる 1 羽。河北郡津幡町領家の水田跡。

福井県

ナベヅル

(1)1995年1月23日。成鳥1羽。坂井郡坂井町折戸、九頭竜川の河川敷。

注：この個体は石川県の記録(2)、(3)と同じかもしれない。

長野県

ナベヅル

(1)1994年11月12日。幼鳥1羽。長野市若穂町、千曲川の中州。同年11月13、15、27日、同市若穂町、屋敷町の千曲川の中州。以後、1995年1月8、15、16日、2月11日に同上地。

(2)1995年2月19日、10時30分頃。(1)と同個体と思われる1羽。佐久市中込町、千曲川の河川敷。

注：このナベヅル幼鳥1羽は上記地域で越冬した。

静岡県

ナベヅル

(1)1994年1月5日、16時頃。成鳥2羽と幼鳥1羽の家族。磐田市白坂中の水田跡。同年1月6日、同上地。

(2)1994年1月9日、14時頃。(1)と同じと思われる3羽。磐田市豊田町富里の水田跡。北西（天竜川）から飛来。同年1月14日。同じと思われる3羽。磐田市白坂中、北方（天竜川）に飛去。

(3)上記の地域の人によると、この家族は1994年12月26日頃から見られ、1995年1月17日まで生息していたという。

愛知県

ナベヅル

(1)1994年11月15日。成鳥1羽。海部郡弥富町、鍋田干拓地。この1羽は11月20日朝まで同地に生息。

(2)1994年12月5日。成鳥2羽と幼鳥1羽の家族。渥美郡渥美町伊良湖の初立池南側の水田跡。

(3)1994年12月8日、12日。4羽（成幼別の羽数不明）。渥美郡田原町豊島の水田跡。

(4)1995年1月9日。4羽（成幼別の羽数不明）。渥美郡田原町、汐川の干潟。(3)と同じと思われる4羽。

(5)1995年4月7日。幼鳥1羽。幡豆郡一色町小敷田新田。同年4月23日、同じと思われる幼鳥1羽、同郡吉良町吉田水田。

三重県

ナベヅル

(1)1994年12月8日。成鳥2羽、幼鳥2羽の4羽。松阪市、北東部の田園地帯。

(2)1995年2月13日。成鳥2羽、幼鳥1羽の3羽。志摩郡阿児町の海岸に近い水田跡。以上(1)、(2)も「中日新聞」による。

島根県

ナベヅル

(1)1994年11月。2羽（幼成不明）。斐伊川河口周辺。

(2)1995年2月12日。2羽（幼成不明）。宍道湖西岸。

(3)1995年2月21日。成鳥1羽。平田市島村、斐伊川河口に10時前に飛来し、すぐ飛び去る。

注：以上(1)、(2)、(3)は「山陰中央新報」、「朝日新聞」による。

(4)1995年4月16日、15時頃。幼鳥1羽。松江市西浜佐陀町、耕起中の田圃。

マナヅル

(1)1995年2月15日。8羽（幼成別の羽数不明）。平田市口宇賀町の水田跡。北へ飛去した。

(2)1995年3月28日11時前から同年4月3日10時頃まで。成鳥1羽。出雲市神西沖町、水田跡。

徳島県

ナベヅル

(1)1994年11月8日。3羽（幼成不明）。海部郡海南町。

(2)1994年11月8日。1羽（幼成不明）。那賀郡那賀町。

(3)1994年11月9日。4羽（幼成不明）。那賀郡那賀町。

(4)1994年11月10日。4羽（幼成不明）。徳島市。

注：以上、(1)～(4)は「徳島新聞」による。

(5)1994年12月10日。成鳥4羽。徳島市川内町旭野。畑地および水田跡。

タンチョウ

(1)1995年1月26日。成鳥1羽。阿南市、那賀川河口の中州。

愛媛県

ナベヅル

(1)1994年11月21日。5羽。東宇和郡宇和町郷内の水田跡。11時半頃見つかり、1時間後に飛去。

注：この記録は1994年11月23日付「愛媛新聞」による。掲載されている写真では、成鳥4羽と幼鳥1羽に見える。

(2)1994年11月22日。5羽（幼成別の羽数不明）。西宇和郡瀬戸町。

(3)1994年11月25日。4羽（幼成別の羽数不明）。南宇和郡城辺町。

(4)1994年12月10日。3羽（幼成別の羽数不明）。北宇和郡三間町。

(5)1995年1月15日。2羽（幼成別の羽数不明）。東宇和郡宇和町。

(6)同年1月15日。3羽。北宇和郡三間町。

(7)同年1月15日。4羽。南宇和郡城辺町。

(8)1994年1月28日。4羽。東宇和郡宇和町。

(9)1994年2月13日。午後。4羽。東宇和郡宇和町永長の水田跡。

注：この記録は1995年2月16日付「愛媛新聞」による。掲載写真では成鳥3羽と幼鳥1羽に見える。

注：以上の記録から、南宇和郡城辺町で4羽、北宇和郡三間町で3羽、東宇和郡宇和町で数羽が越冬したようであるが、正確な情報は得られていない。

マナヅル

(1)1994年12月3日。1羽（幼成不明）。南宇和郡御荘町。

(2)1994年12月7日。2羽（幼成不明）。大洲市。

高知県

ナベヅル

(1)2羽が中村市で越冬したようである。

マナヅル

(1)8羽が中村市で越冬したようである。

タンチョウ

- (1)1994年12月25日。成鳥1羽。幡多郡大方町の水田跡に飛来。以後、高岡郡窪川町に移り、1995年1月下旬まで同地に生息。

注：以上は、澤田佳長氏からの安部宛私信と観音寺に鶴を呼ぶ市民の会々報・第23号の同氏発の情報による。

福岡県

ナベヅル

- (1)1995年2月26日頃より3月7日頃まで。4羽（幼成別の羽数不明）。遠賀郡遠賀町の水田跡。

マナヅル

- (1)1994年12月10日から1995年1月1日まで。成鳥1羽。北九州市小倉南区曾根新田の畑地。干潮時には時々、曾根干潟にも飛来。

種不明

- (1)1995年2月27日、18時30分。30～40羽。糸島郡志摩町小富士の上空。高度300～400mを北北西に。
(2)1995年3月6日、18時。20羽。同上所を同じように飛行。

注：出水における渡去状況から、(1)の記録はマナヅルであろう。

佐賀県

マナヅル

- (1)1995年2月11日。4羽（幼成不明）。伊万里市東山代町の干拓地。
(2)1995年2月13日。成鳥2羽と幼鳥2羽。伊万里市（注：(1)と同じ個体であろう）。
(3)1995年3月7日。成鳥33羽、幼鳥6羽。唐津市、松浦川河口の干潟におりる。

長崎県

長崎県の記録は、(1)九州本島地域と(2)壱岐・対馬地域に分けて示した。前年同様に、本島地域については大野廣延氏、対馬については山村辰美氏から詳しい情報をいただいた。

1. 九州本島地域

ナベヅル

- (1)1994年10月末。30羽以上が諫早市小野島町の水田跡に飛来（1995年11月5日付、地元新聞による）。
(2)1994年10月30日、12時。8羽。佐世保市港外、海上低くを北西から東南に。
(3)1994年11月3日、15時。58羽。諫早市小野島町。以後、数日間観察され、諫早干潟をねぐらにしている。
(4)1994年11月5日、7時40分。5羽。西彼杵郡野母崎町、高浜海水浴場の上空をゆっくり旋回していた。
(5)1994年11月14日、16時10分。52羽。諫早市小野島町の畑地や干潟。同地に11月14～19日にも観察された。
(6)1994年11月21日、15時10分。50～60羽。長崎市末石町、長崎水産高校グラウンドの上空約500mを北西から南南東に。
(7)1994年11月23日、7時。成鳥2羽と幼鳥1羽。長崎市江川町、江川。11月24日にも観察されたが、25日には見られなかった。
(8)1995年1月14日、10時以降。成鳥1羽と幼鳥2羽。諫早市小野島町の畑地。1月15、16日、2月

3、4、5、7日にも観察された。

(9)1995年2月3日、4、5、7日。成鳥8羽と幼鳥3羽の群。諫早市小野島町の農地。この計11羽は、(8)の3羽も一緒になったものと思われる。

(10)1995年3月15日、9時。15羽。島原市より千々湾方向に(西方に)。

(11)同日、11時50分。70羽。西彼杵郡野母崎町、高浜上空。鹿児島方向より飛来し長崎市内方向に。

(12)同日、15時47分～16時15分。計106羽。佐世保市東浜上空を低く通過。

(13)1995年3月16日、9時。22羽。島原市より千々湾方向に。

(14)1995年3月19日、10時20分。5群計400羽。佐世保市早岐上空を北に。

(15)同日、14時45分。5羽。佐世保市針尾町上空を北に。

(16)1995年3月20日、12時15分に11羽。12時45分に約800羽。北松浦郡小佐々町、冷水岳にて。

(17)同日、12時47分。2群150羽と50羽の計200羽。西彼杵郡大島町を平戸方向に(北に)。

(18)同日、13時5分～13時45分。約300、80、180、68、241羽の計870羽。佐世保市船越町、石岳にて。

注：1995年3月20日には、出水地方にはマナヅルは2羽が残るのみで、この2羽は当日渡らず。数千羽のナベヅルとカナダヅル3羽、クロヅル2羽が渡去しているので、3月20日の記録にはこのカナダヅルとクロヅルも含まれているであろう。

(19)1994年3月22日、13時30分に140羽、14時0分に200羽。平戸市上空。

(20)同日、14時35分に80羽、14時52分に30羽。北松浦郡小佐々町、冷水岳にて。

(21)1994年3月23日、13時5分。1羽。佐世保市船越町、石岳上空を巡回しながら東南に。

(22)1994年3月26日、16時25分。200羽。佐世保市相ノ浦上空を小佐々町方向に。

(23)同日、16時30分。100羽。佐世保市上空。

(24)同日、16時50分。約1,000羽以上。佐世保市赤崎町上空を南から北に。

(25)同日、17時55分～18時10分。約600羽。北松浦郡田平町上空を北西に。

(26)1994年3月27日、10時30分。約300羽。西彼杵半島の中央部の上空を通過。

(27)同日、13時5分。153羽。北松浦郡小佐々町、冷水岳にて。

(28)同日、16時0分。15羽。佐世保市船越町、石岳にて。

マナヅル

(1)1995年2月4日。2羽。諫早市小野島町、干潟地上空を北西に。

(2)1995年2月11日、11時30分。約30羽。長崎市深堀町上空。巡回して北に。

(3)同日、11時50分。約80羽。西彼杵郡為石町上空。南南東から北北西に。

(4)同日、14時30分。成鳥2羽と幼鳥2羽。佐世保市赤崎町上空。西彼杵郡方向から来て北に。

(5)同日、15時0分。4羽。佐世保市船越町、石岳にて。

(6)1995年2月17日、11時30分頃。約50羽。長崎市深堀町上空を北に。

(7)1995年2月27日、14時2分。2羽。佐世保市船越町、石岳にて。

(8)1995年3月2日、15時10分。13羽。佐世保市船越町、石岳にて。

種不明

この項にまとめた記録は、ナベヅルかマナヅルか不明のもの、あるいは、数種の混群である。

(1)1995年2月17日、13時4分から14時12分まで。6、276、79、150、149、119、329、14羽の計1,122羽。このうちソデグロヅル1羽を含む。佐世保市船越町、石岳にて。

(2)同日、15時頃。羽数不明。平戸市石川町上空。1995年2月19日付「朝日新聞」。

注：1995年2月17日には、出水を渡したツルはマナヅル約550羽とソデグロヅル1羽であるが、長崎方面では、(1)の記録のようにさらに多数のツルが観察されている。また(2)の記録に記載されている写真には約70羽のツル（種の同定は出来ず）が写っている。

(3)1995年2月20日、16時15分。2羽。北松浦郡福島町上空を通過。

(4)1995年3月5日、14時0分。30羽。佐世保市知見寺上空。

(5)1995年3月6日、13時0分と15時40分。約110羽。北松浦郡小佐々町、冷水岳にて。

(6)1995年3月12日、16時40分。約80羽。佐世保市東浜上空を通過。

(7)1995年3月13日、11時30分。約150羽。長崎市深堀町上空を北に。

(8)同日、13時50分～15時45分。92羽。佐世保市船越町、石岳にて。北西に。

2. 壱岐・対馬地域

この地域の記録は種別にせず、季節順に記した。

(1)1994年10月30日、13時35分。ナベヅル130～140羽。下県郡美津島町白岳山頂を北から南に。

(2)1994年10月31日、19時。羽数不明、ツルの鳴声。壱岐郡石田町。

(3)1994年11月3日、時刻不明。100羽以上のツル。上県郡上県町佐護の上空を南に。

(4)1994年11月20日、18時頃。ナベヅルと思われる約50羽。上県郡上県町佐護の上空を北から南に。

(5)1994年11月21日、時刻不明。ツルの鳴声。上県郡上県町佐護の上空。

(6)1995年2月7日、夕方。羽数不明のツルの鳴声。壱岐郡石田町。2月8日午前中に石田町、深江一帯を調査したが降りているツルは見られず。

(7)1995年2月11日、夕方。マナヅル3群約80羽。壱岐郡石田町に飛来。2月12日は雨天のため同所に滞在。2月13日10時0分に北に立つ。

(8)1995年2月11日、夕方に飛来。2月12日、8時40分。マナヅル103羽。上県郡上県町佐護の水田跡。2月13日10時5分に北に立つ。

(9)1995年2月16日、8時25分頃から約80羽（注：おそらくマナヅルである）、壱岐郡郷ノ浦町長峰本村触の上空。南南東から北に。

(10)1995年2月17日、夕方に飛来。2月18日、8時頃。マナヅル約300羽。上県郡上県町佐護の水田跡。2月19日9時半頃、休息していたが、田圃工事の人達が近くで仕事を始めたので飛び立つ。

(11)1995年2月18日、8時45分頃。約200羽。壱岐郡郷ノ浦町、東南から飛来して黒崎上空で旋回、約10分。上昇して対馬方向に。

(12)1995年2月28日、8時30分。マナヅル約30羽。上県郡上県町佐護の水田跡。

(13)1995年3月2日、17時。約70羽（注：おそらく、この多くはマナヅルと思われる）。壱岐郡石田町の水田跡に降りる。3月3日も滞在。3月4日も悪天候で滞留。3月5日、9時、北に立ったが、一部は残ったようである。

(14)1995年3月初め、マナヅルとナベヅル合わせて100羽以上が壱岐郡芦辺町深江の水田跡に飛来、滞留。3月8日現在、数羽が残っている（注：これは、1995年3月9日付「西日本新聞」による。3月4日撮影のマナヅルの写真付記事）。

(15)1995年3月6日、7時。マナヅル26羽。上県郡上県町佐護の水田跡。

(16)1995年3月26日、11時30分頃。ナベヅル約100羽。壱岐郡郷ノ浦町。南東から飛来して黒崎上空

で旋回し、上昇して対馬方向に。

熊本県

ナベヅル

(1)1994年10月17日、10時。20羽。天草郡河浦町、水田跡。出水の方に飛去。

注：1994年秋期の出水におけるツル類の初渡来は10月19日、日中のナベヅル2羽である。10月25日にはナベヅルは計44羽になった（以上、又野末春氏による記録）。この河浦町の記録は、出水における初認日より早い。河浦町は出水に近く、渡りのコースに入っており、しかも、ツル類の生息に好適な湿地と広い水田跡がある。

例年、秋のツルの渡来初期には、出水のツル越冬地の遊休農地内には、ねぐらの水場がまだ整備されていないので、この時季には、出水に渡来後のツル類は、夕方になるとねぐらを求めて長島、天草方面に飛去するのが何度も観察されている。これらの事情もあって、出水より早く、河浦町にツルが渡来するのであろう。

なお、1991年秋にも、出水より早く、河浦町にマナヅルが渡来している。

マナヅル

(1)1994年11月6日、12時。1羽。八代市鼠蔵町、球磨川河口の上空を南に。

(2)1995年2月11日、10時30分～11時50分。4群約250羽。牛深市深海町、六郎次山にて。上昇して天草町高浜方向に。

(3)1995年3月5日、11時。約70羽。(2)と同所で、同じ方向に。

(4)1995年3月19日、午後。幼鳥1羽。玉名郡横島町の干拓地（注：1995年3月21日付「熊本日日新聞」による。その写真から幼鳥と思われる）。

大分県

マナヅル

(1)1994年12月15日、4羽（成幼別の羽数不明）。宇佐市松崎海岸近くの水田跡（注：1994年12月17日付「読売新聞」による）。

(2)1994年12月17日。成鳥2羽。佐伯市木立。

(3)上記(1)と同じ個体と思われるマナヅルが宇佐市佐々礼に1994年12月29日まで生息。

(4)1995年1月7日、17時30分頃。羽数不明。宇佐市、寄藻川河口に降りる。1月8日から1月15日まで同所に生息。1月16日から行方不明。1月25日、再び同所に4羽生息。

注：情報が少なく不明な点が多いが、4羽のマナヅルが大分県内で越冬したようである。

結 び

1. 1994～1995年期には新潟、石川、福井、長野、静岡、愛知、三重、島根、徳島、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分の各県からツル類の記録が得られた。
2. 新潟県（佐渡ヶ島）でクロヅル幼鳥1羽が、長野県でナベヅル幼鳥1羽が越冬した。さらに長崎県ではナベヅル数羽か11羽が越冬した。
3. 石川県と福井県にかけてナベヅル1羽か数羽が、愛知県、島根県ではナベヅル1羽か数羽が、愛媛県では3ヶ所でナベヅル数羽が、高知県ではナベヅル2羽が越冬したようである。

高知県ではマナヅル 8 羽が、福岡県ではマナヅル 1 羽が越冬したようである。

4. 同一個体と思われるタンチョウの成鳥 1 羽が、1994年12月下旬から1995年 1 月下旬の間、高知県と徳島県内で記録された。
5. 1991年秋期と同様に、1994年秋にも、出水のツル類越冬地より早く、熊本県天草郡河浦町の農耕地帯にナベヅルが渡来していた。
6. これまでの調査結果と同様に、出水のツル類の渡りの途中の休息地として、特に壱岐と対馬は重要である。

文 献

千羽晋示・安部直哉, 1989. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第16報. ツル類の生息状況に関するアンケート調査(昭和62年度). 自然教育園報告, 20: 41-48.